

# 魅力のある輝く学級づくり

茨城県教育研修センター

## 1 学級は

- 学級は、一人一人のよさを引き出し、生かし、伸ばす場であり、協力し合い、みがき合うところです。
- 学級は、一人一人が学級の一員であることに喜びを感じ、安心して学び合い、将来への夢とたくましく生きる力をはぐくむところです。

<茨城県教育委員会ホームページより>

[www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/shochu/shido/izime/kyosi.html](http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/gakkou/shochu/shido/izime/kyosi.html)

1

4

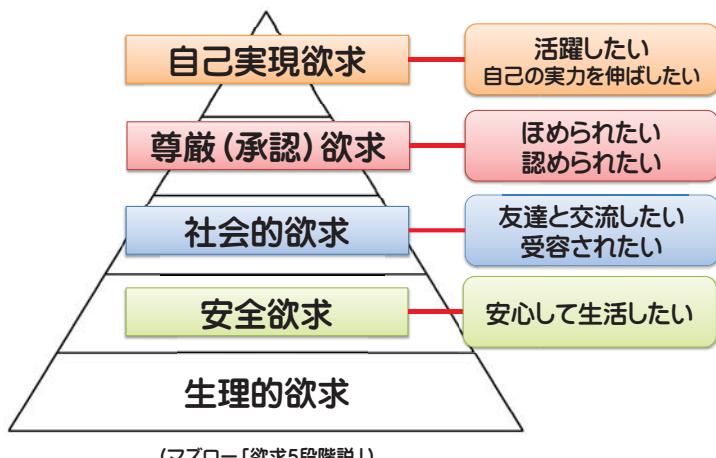
## 本日の講義の内容

1 学級とは

2 学級経営の主な内容

3 学級担任としての教師の在り方

(参考) 子供たち一人一人が持っていると考えられる学級への欲求



2

5

あなたは、どんな学級をつくりたいですか？

## 2 学級経営の主な内容

(茨城県教育委員会「平成27年度教員ハンドブック」より)

学級経営案の作成

児童生徒の理解

望ましい学級集団の育成

学級経営の評価



3

6

## 2 – (1) 学級経営案の作成

学級経営を効果的に進めるためには、学校・学年との教育目標との関連を図りながら、学級の教育目標を明確にし、学級経営の諸活動をどう計画し、どう運営するかについて、1年間の見通しを示した経営案が必要である。

(茨城県教育委員会「平成27年度教員ハンドブック」より)

### 学級の教育目標

### 学級の経営方針

(学級内における人間関係、学習指導、生活指導面のポイントを押さえて)

### 学級の教育目標を達成するための具体的施策

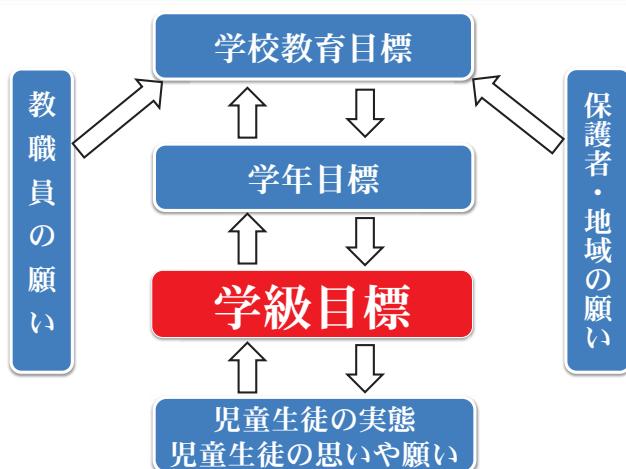
## 2 – (3) 望ましい学級集団の育成

- ア 活動の目標を全員でつくり、その目標について全員が共通の理解をもっていること。
- イ 活動の目標を達成するための方法や手段などを全員で考え、それを協力して実践できること。
- ウ 一人一人が役割を分担し、その役割を全員が共通に理解し、自分の役割や責任を果たすとともに、活動の目標について振り返り、生かすことができること。
- エ 一人一人の自発的な思いや願いが尊重され、互いの心理的な結び付きが強いこと。
- オ 成員相互の間に所属感や所属意識、連帯感や連帯意識があること。
- カ 成員の中で、互いのよさを認め合うことができ、自由な意見交換や相互の関係が助長されるようになっていること。

(参考) 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」  
「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」

10

## 2 – (1) 学級経営案の作成



8

## 2 – (4) 学級経営の評価

(茨城県教育委員会「平成27年度教員ハンドブック」より)

評価の観点を設定し、計画的・継続的に評価を行い、学級経営の改善向上に役立てる

目標とのつながりはどうか

児童生徒のために役立っているのか

別の方法はないか

振り返り

工夫・改善・発展

11

## 2 – (2) 児童生徒の理解

- ア 児童生徒一人一人の個性を生かすように努める。
- イ あらゆる機会を捉えて一人一人の児童生徒の理解に努める。
- ウ 計画的に諸調査・検査を実施し、それらの結果を効果的に活用する。
- エ 不登校や問題行動を起こした児童生徒については、その原因や背景をつかみ、家庭や他の教師との連絡を密にし、教育相談機関や専門機関との連携を図りながら適切な指導・援助を行うようとする。
- オ 心の触れ合いを通して、児童生徒のものの見方・感じ方・考え方を把握するように努める。

(茨城県教育委員会「平成27年度教員ハンドブック」より)

## 3 学級担任としての教師の在り方

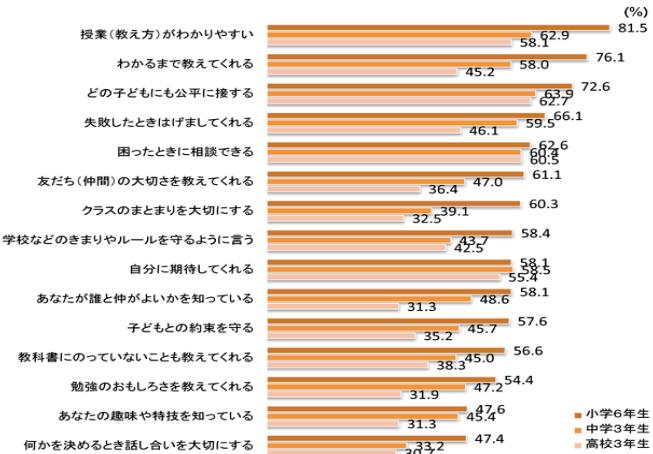
- 公正、公平な態度で児童生徒に接するようにする。
- 児童生徒一人一人の願いや悩みを捉えるようにする。
- 児童生徒一人一人の長所を発見するように努める。
- 教師も一人の人間として児童生徒に接するようにする。
- 児童生徒のつまずきから学ぶ教師になる。
- 教師としての使命感をもつ。
- 教室環境の整備に努める。

(茨城県教育委員会「平成27年度教員ハンドブック」より)

9

12

## (参考) 尊敬している先生はどのような先生ですか HATOプロジェクト・教員の魅力プロジェクト「教員のイメージに関する子どもの意識調査」(ペネッセ総合教育研究所)より



## まとめにかえて ~教員を目指すみなさんへ~

少年は自信を持ち始めていた。

クリスマスの午後だった。

少年が小さな包みを先生の胸に押しつけてきた。

あとで開けてみると、香水の瓶だった。亡くなったお母さんが使っていたものに違いない。先生はその一滴をつけ、夕暮れに少年の家を訪ねた。

雑然とした部屋で独り本を読んでいた少年は、気がつくと飛んできて、先生の胸に顔を埋めて叫んだ。

「ああ、お母さんの匂い！きょうはすてきなクリスマスだ」

六年生では先生は少年の担任ではなくなった。卒業の時、先生に少年から一枚のカードが届いた。

「先生は僕のお母さんのようです。そして、今まで出会った中で一番すばらしい先生でした」

それから六年。またカードが届いた。

13

16

## まとめにかえて ~教員を目指すみなさんへ~

その先生が五年生の担任になった時、一人、服装が不潔でだらしなく、どうしても好きになれない少年がいた。

中間記録に先生は少年の悪いところばかりを記入するようになっていた。

ある時、少年の一年生からの記録が目に止まった。

「朗らかで、友達が好きで、人にも親切。勉強もよくでき、将来が楽しみ」とある。

間違いだ。他の子の記録に違いない。先生はそう思った。

二年生になると、

「母親が病気で世話をしなければならず、時々遅刻する」と書かれていた。

三年生では

「母親の病気が悪くなり、疲れていて、教室で居眠りする」

三年生の後半の記録には

## まとめにかえて ~教員を目指すみなさんへ~

「明日は高校の卒業式です。僕は五年生で先生に担当してもらって、とても幸せでした。おかげで奨学金をもらって医学部に進学することができます。」

十年を経て、またカードがきた。



14

17

## まとめにかえて ~教員を目指すみなさんへ~

「母親が死亡。希望を失い、悲しんでいる」とあり、四年生になると

「父は生きる意欲を失い、アルコール依存症となり、子どもに暴力をふるう」

先生の胸に激しい痛みが走った。

ダメと決めつけていた子が突然、深い悲しみを生き抜いている生身の人間として自分の前に立ち現れてきたのだ。

先生にとって目を開かれた瞬間であった。

放課後、先生は少年に声をかけた。

「先生は夕方まで教室で仕事をするから、あなたも勉強していかない？ 分からないところは教えてあげるから」

少年は初めて笑顔を見せた。

それから毎日、少年は教室の自分の机で予習復習を熱心に続けた。

授業で少年が初めて手をあげた時、先生に大きな喜びがわき起こった。

## まとめにかえて ~教員を目指すみなさんへ~

そこには先生と出会えたことへの感謝と父親に叩かれた体験があるから患者の痛みが分かる医者になれると言され、こう締めくられていた。

「僕はよく五年生の時の先生を思い出します。あのままだめになってしまふ僕を救ってくださった先生を、神様のように感じます。大人になり、医者になった僕にとって最高の先生は、五年生の時に担当してくださった先生です」

そして一年。届いたカードは結婚式の招待状だった。

「母の席に座ってください」と一行、書き添えられていた。

(藤尾 秀明『心に響く小さな5つの物語』より)

15

18

一期一会を大切にし

一人一人の**背景**をみて

たっぷりの**愛情**を